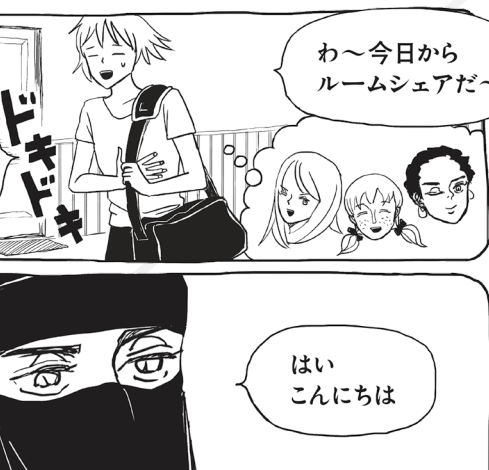


『サトコとナダ』から 考えるイスラム入門

ムスリムの生活・
文化・歴史

椿原敦子
黒田賢治

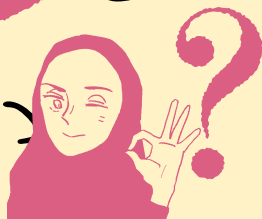


なぜ女性

マンガで
わかりやすい
イスラム
入門書

ベールを

被るのか?



『サトコとナダ』から考えるイスラム入門

椿原敦子 黒田賢治

星海社

145



SEIKAISHA
SHINSHO



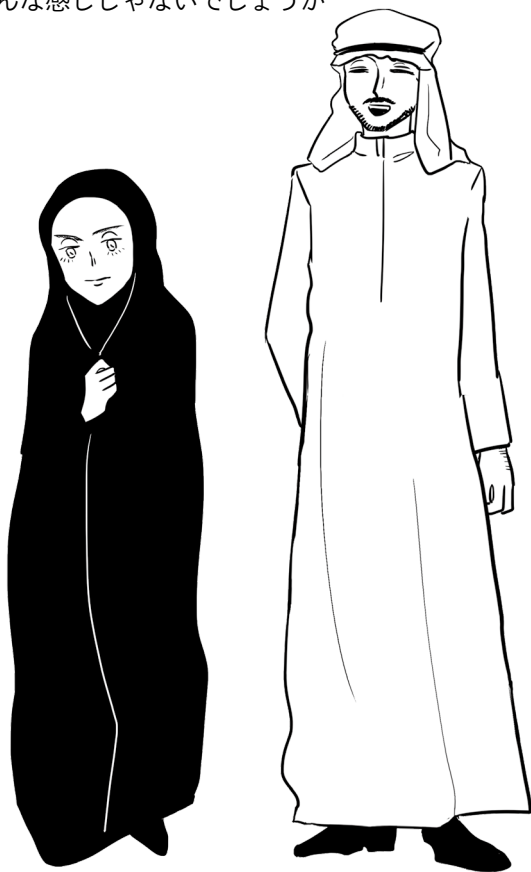
今日、イスラム教徒は世界に
約 17 億 3 千万人以上暮らし、
およそ世界の 4 人に 1 人だといわれています。

イスラームはアラビア語で
「帰依する」という意味です。

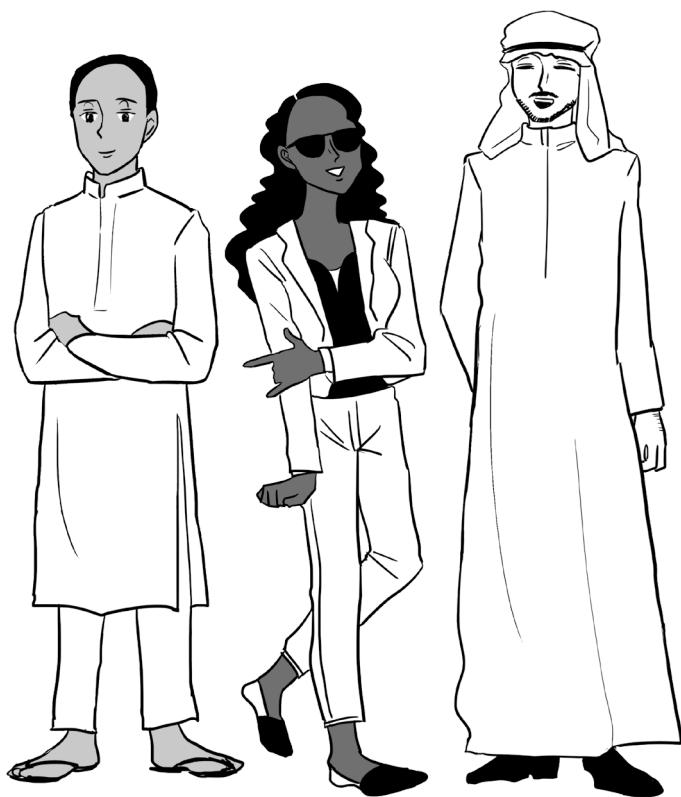
イスラムについて、
みなさんは
どんなイメージを
持っていますか？



こんな感じじゃないでしょうか

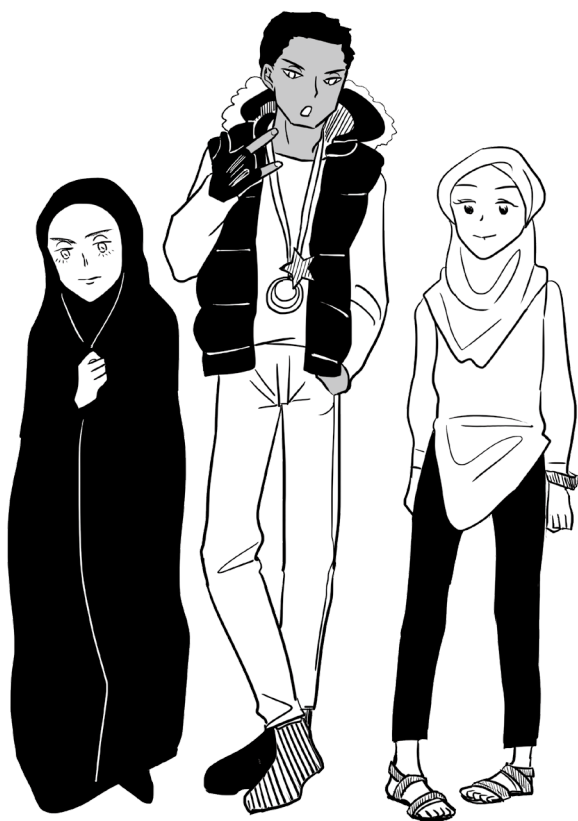


うんうん 確かに彼らはイスラム教徒ですね。
だけど……



ラム教徒です!!





彼らも全員イス



1日に何回も
できないから、
1度にまとめて
お祈りする

海外にいるときは
お祈りしません



from
パキスタン



from
フランス



お祈りは大事な
お祭りの時だけかな、
ふだんは
やらないかな

from
UAE

ブルカとよばれる、顔を含む全身を覆う服を着る人。
そうかと思えば、髪も体の線も覆うことのない服を
着ている人もいます。

らやり方は**さまざま**なのです。

お祈りはほとんど
しないけどアッラー
を愛してる

可能な範囲で
お祈りするよ

毎日5回の
お祈りは
かかさないよ!

時々するけど
モスクには
行ったことない

from
サウジアラビア

from
アメリカ合衆国

from
マレーシア

1日5回の礼拝を欠かさないイスラム教徒もいます。
しかし、すべてのイスラム教徒に共通するものではありません。
顔と手以外が隠れる服アバヤをまとい、スカーフで髪を覆る人。

イスラム教徒は世界中にいるか

あるはずなのに

教徒

ときくと

タイプなイメージ

「大変そう」
「している人々」

しまうのは何故でしょう？



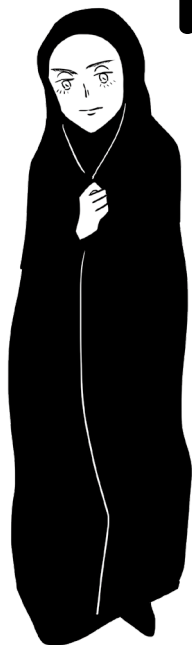
イスラムの形はたくさん

イスラム

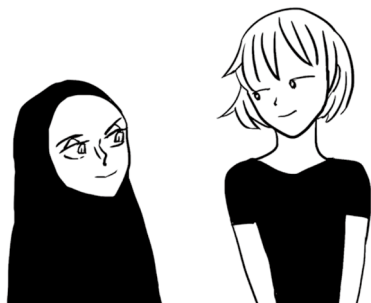
こうしたステレオ

「敬虔な信者」
「禁欲的で修行

といった姿を思い描いて



本書では、
イスラム教徒に対する
ステレオタイプなイメージを
一旦リセットし、
よりよいお付き合いのための
ヒントを探ってゆきます。



メディアを通して、
知らないうちに我々が身に着けてしまった
偏見や思い込みというベール、一旦脱いでみませんか？
きっと、多様で豊かなイスラムが見えてくるはずです！

はじめに

みなさんが本書を手にとるきっかけとなったのは、どんな事柄だったのでしょうか。

日本の新聞やテレビで、イスラムに関する報道はいまや両極端なものになっているように見受けられます。一方は中東地域を中心とするテロや紛争と結びついたもの、もう一方は日本を訪問する観光客への「おもてなし」に関するものです。

イスラムについて知りたい、イスラム教徒とつきあっていきたいと思ってもなかなかイメージがつかみにくいのは、こうした情報の二極化のせいでもあるでしょう。

もうひとつのわかりにくさの理由は、イスラム教徒とは誰を指すのか、ということの難しさです。同じ信仰を持つ人たちなのだから、共通する部分を知りたい、と思われるかもしれません。でも、約17億3千万もの人をひとくくりに「こんな人たちです」ということが可能でしょうか？

このざっくりとまとめられたイスラム教徒のイメージ、ステレオタイプこそが理解を妨

げているように感じます。私達だって、アジア人とひとまとめされると「間違つてないけど全然違うよ！」つて言いたくなりますよね。

アメリカに住む筆者の友人にアフリカ西部の国セネガル出身のイスラム教徒がいます。彼にとっていろんな国からいろんな格好をした人がモスクに集まるのは当たり前のことだそうです。彼はイスラムのなかに宗派があることを、アメリカに来てからはじめて知ったそうです。

彼にとって宗派など大した問題ではなかったようで、イスラム教徒であることに変わりはないと考えていました。ただ彼は、二種類のイスラム教徒がいる、それはお祈りのときに腕を組むか、まっすぐ伸ばすかの違いだといいます。

一方でイラン出身のイスラム教徒の知人は、サウジアラビアだというだけで「自分たちに敵意を向ける存在だ」と毛嫌いしますし、頭ごなしに「イランのイスラム教徒は間違っている」というサウジアラビアの知人もいます。

今後あなたが出会うイスラム教徒たちがそれぞれに違う説明をしたとき、どれが本場で、どれが迷信や地方の慣習なのか、分からなくなることもあるでしょう。だからこそ、正しい

いいイスラムの知識を得ておこうと考えて本書を手にとった方もいるかもしれませんが。

何が本当のイスラムなのかということについて、本書ではこのように考えます。ひとつのイスラムがあるわけではなく、イスラム教徒、個々人が信じるものこそ「本当のイスラム」なのだと。

もちろん、神学の世界では根拠や論理にもとづき、より正しい教えについての議論が重ねられてきました。また信徒同士がお互いの解釈ややり方を認めないこともあるかもしれませんが。しかし、それらもまた人の営みです。イスラムが何かを知ることとは、無数のイスラム教徒によって語られてきたイスラムについて知るという壮大な作業にほかなりません。正しさをめぐる議論についてはイスラム思想史など、より専門的な書物をあたっていただく必要があるでしょう。

本書が目的としているのは、今まで・これから出会うイスラム教徒とつき合っていくための「教養」と「頭の体操」です。

読者のなかには実際に知り合いになったイスラム教徒から、本書に書かれていないことを見たり聞いたりするかもしれません。それが、自分の常識では考えられないことだった

り、無理な要求だと思えることだったらどうするでしょうか？

「やっぱり、イスラム教徒とつき合っていくのは難しいんだな」と、他のイスラム教徒のことも敬遠するようになってしまいかもしれません。

でも、安心してください。知ることと、分かることは別の問題です。異なるやり方や考え方をお互いにどう認めるのかで、その関係性は大きく違ってきます。

心から相手のすべてを受け止めなければ失礼にあたると身構えていませんか。普段私たちは同僚や友達に対してそんな風に接しているでしょうか。また深く付き合うことも、相手の全てを受け止めることだけなのでしょうか。すべてを受け止めたり分かりあったりすることができなくても、しかるべきコミュニケーションをとっていれば、お付き合いはできます。

本書の二人の筆者は、一人はイスラム教徒を含んだグローバルな移民を専門とした研究を行い、もう一人はイランを中心とした中東のイスラム教徒を専門とした研究をしています。

グローバル化に伴って人や情報が迅速・大規模に移動する中で、イスラム教徒も別の地

域に住むイスラム教徒と出会ったり、これまで知らなかったようなイスラムの知識を得たりするようになっていきます。私たちが食べ物や職業、家族生活など多くの局面で何を選ぶべきかを迫られているように、現代のイスラム教徒にも多種多様な選択肢が開かれています。私たちもイスラム教徒も、よりよい選択をすべく試行錯誤を重ねており、その中でお互いに隣人として暮らすこともあるでしょう。

本書はそんな機会を想定して、イスラムについて、ゼロから学ぶとともに、よりよいコミュニケーションをとるためのヒントを提供できればと考えています。

ところで、イスラム教徒と書くと、モスクにずっと並び祈りを捧げる人々というイメージをもつていませんか。おそらく「イスラム教徒Ⅱイスラムという宗教の信者」だと考えているからだと思います。

もちろんこのようなイメージ通りのイスラム教徒もいるでしょう。しかしそのような人だけではありません。いつもは仕事で忙しくてそれどころではないが、一年のうちで重要な行事の時期にはおごそかな気持ちで過ごす人もいますし、人生の困難な時期に信仰心を強めた人もいます。イスラム教徒として生まれ、結婚式や葬式はイスラム式になるが普段

は特に意識していない人もいます。あるいは親がイスラム教徒なので人口統計上、イスラム教徒とされているだけの場合もあります。

信仰や考え方の幅があるにもかかわらず、イスラム教徒と書くとは特定のイメージに繋がってしまふことを考慮すると、「イスラムの人」といった方がいいかもしれません。

日本の人、関西の人、アウトドア系の人のように「〇〇の人」は、おおまかな集団を指すには便利な言い方です。ただ文語としてはしっくりこないのです、本書ではムスリムという用語を使いたいと思います。アラビア語で「帰依する者」を意味するムスリム（女性はムスリマ）は、一般的にはイスラム教徒と同じ意味の言葉として使われますが、本書では「イスラムの人」というニュアンスも含めて使っていきます。

目次

はじめに 11

第1章 暮らしのなかのイスラム 1日、1年、そして一生 23

1 ムスリムのヒジュラ暦って、太陽暦とどう違うの？ 24

月の満ち欠けから計算する1年 24

太陽と共に過ごす1日 29

礼拝ってどうするの？ 32

2 イスラムで過ごす1日 36

ムスリムの食事Ⅱハラル・フードではない 37

禁酒とアルコール問題 40

ヒジャブ「ヒジャブ」は本当に抑圧のシンボルなのか？ 44

イスラム社会の教育事情 49

3 イスラムで過ごす1年 55

ラマダーン月と断食明け祭 55

一度は行ってみたい大巡礼と犠牲祭 59

4 イスラムで過ごす一生 64

結婚は人生最大のイベント 65

死んだらどこへ行くの？ 71

第2章

おさえたいイスラムの成り立ち

77

1 ムハンマド、ある日預言者に選ばれる 79

一神教的伝統 83

人類を諭し続けるために遣わされた預言者たち 86

2 預言者がなくなった世界をどう生きるか 91

コーランの解説者、ムハンマド 92

布教の限界と移住 93

共同体の責任者問題 97

預言者一族こそが責任者であるべきだ！ 99

言説の真偽を見定める方法としてのハディース学 101

フェイク・ニュースを見極めろ 104

3 イスラムをささえる三つの学問 106

法学——外面の行為を定める 106

神学——「信じる」という内面の行為を定める 111

スーフィズム——神を体験する 113

第
3
章

世界に17・3億人！世界にひろがるイスラム

117

1 こんなに違う地域別ムスリム 118

南アジア——世界最大のムスリム人口を誇る 121

東南アジア——最も身近なムスリムが暮らす地域 123

東アジア——戦前日本にイスラムを考えさせた 125

中央アジア・東欧——ポスト社会主義 127

サブサハラ・アフリカ——大西洋とインド洋を繋ぐ 129

社会に必要とされた移住者としてのイスラム 131

2 現代イスラムの流れを生み出すもの 133

イスラムⅡ中東でも、多様なイスラムの在り方 134

イスラムの元祖、中東の影響力 136

「イスラムがヤバイ」のだいたいは偏見 138

第4章

現代世界のイスラム

151

一般のムスリムが「イスラムとは何か」を探究した50年
過激派と一般のムスリムの違いとは？ 144
目覚めの複数性 147

1 イスラム嫌いになるにもいろいろ

152

数世紀前に倒したはずの亡霊Ⅱイスラム

154

アメリカのムスリムⅡ戦友から巨悪の敵へ

156

2 隣に気にしすぎた西欧、気にしすぎなかったアメリカ

159

隣の労働者がムスリムだった

160

ベール問題に揺れるヨーロッパ——司法・行政の判断の限界

164

見えない憎悪の対象

167

見落とされた国内ムスリム①——黒人ムスリムの改宗

169

見落とされた国内ムスリム②——アメリカに暮らす移民たち 173

3 世界的な排外主義の高まり 176

イメージ先行のムスリム排斥 177

難民に揺れるヨーロッパ 181

第5章 ムスリムさんのおもてなし——共存から共生へ 187

ムスリムさんを「お・も・て・な・し」？ 189

日本の定住型ムスリムの増加 192

目の前にある課題 194

精神論ではなくプラクティカルな共生へ 197

「お・も・て・な・し」から「おもてなし」へ 199

第 **1** 章

暮らしのなかのイスラム
1日、1年、そして一生

ここではムスリムの暮らしについて、1日、1年、そして一生という時間の分け方について見ていきたいと思います。

まずは流れる時間の数え方について見てみましょう。

1 ムスリムのヒジュラ暦って、太陽暦とどう違うの？

月の満ち欠けから計算する1年

ムスリムの宗教的な行事は、一般的にヒジュラ暦（イスラム暦）にそって行われます。

このヒジュラ暦というのは、月の満ち欠けをもとにした太陰暦です。日没から次の日没までを1日と数えます。

1日が新月から次の新月まで29〜30回



すぎることで1月となります。

この1月の始まりを告げる新月には、目視という実測方法と天文学に基づいた計算による算出方法の二つの方法があります。

目視はムハンマドが生きていた時代から行われてきた方法です。現在でも「偉い宗教指導者」が肉眼で確認し、月の始まりを決める国も少なくありません。

しかし目視ですと、経度や緯度によって月の見え方が変わってきたり、天候によっては見えない場合もあります。すると月の始まりが変わってきてしまい、予定が変わってしまうこともあり得ます。ですから、天文学を用いて月の満ち欠けを算出する方法があるので、ただし国家や団体といった異なるレベルで、計算派と目視派があり、同じ国のなかでも統一されていない場合もあります。

こうして1月が12回すぎると1年となります。

1月、2月といった無味乾燥な言い方ではなく、各月には名称がついています。

- 1 ムハツラム月
- 2 サファル月
- 3 ラビーウ・アウワル月
- 4 ラビーウ・サーニー月
- 5 ジュマーダー・ウーラー月
- 6 ジュマーダー・アーヒラ月
- 7 ラジャブ月
- 8 シャアバーン月
- 9 ラマダーン月
- 10 シャウワール月
- 11 ズー・アル＝カアダ月
- 12 ズー・アル＝ヒツジャ月

1年は354ないしは355日となり、私たちが普段使っている西暦とは、毎年10ゝ12日ずつずれが生じます。つまり、太陰暦では暦と季節との間に少しずつずれが生じること

になります。

日本で江戸時代に用いられていた天保暦などの太陽太陰暦では、このずれを調節するために「閏^{うるうづき}月」という月を入れ調整を図っていました。しかしヒジュラ暦では「閏月」を入れず、毎年12の月しかありません。というのも、コーランで「実にアッラーの御許により、月の数は、12ヶ月である。……以下略。『コーラン』悔悟章36節」と明確に記されているためです。

そのため歴史的にはムスリムが暮らす社会では、ヒジュラ暦に加えて、その土地に根付いた農業暦や新たに考えられた太陽暦も併用されてきました。

こうして1年が積み重なり、イスラムの歴史は積み重ねられてきました。

西暦の2019年はヒジュラ暦では1440年あるいは1441年になります。

ヒジュラ暦の元年は、ムハンマドがヤスリブ（現…メディナ）の町に移住^{ヒジュラ}をした年の1月1日を元年としています。西暦でいえば622年7月16日にあたります。

よくある勘違いなのでいっておきますと、622年7月16日に移住が行なわれたわけではありません。またヒジュラが行なわれる以前からも、このヒジュラ暦法は使われていま

した。ムハンマドが預言者選ばれた時です。

より正確にいうと、ムハンマドが生きていた時代には、ヒジュラの年を元年とする数え方はありませんでした。彼のあとを継いで、2代目の後継者選ばれたウマルが638年に指示して元年を定めたのです。

今日、ムスリムが多く住む社会でも、イスラム暦に加えて西暦も用いられています。なかには、それに加えて独自の暦を採用するところもありますが、1週間の過ごし方はイスラム流です。

金曜日が休日にあたり、金曜日の正午には集団礼拝が行われます。とはいえ西洋社会など日曜日を休日にする社会で働いていれば金曜日働きますし、モスクで開催される金曜礼拝にも参加できる人



だけ参加することになります。

太陽と共に過ごす1日

ムスリムにとって1日、1月、1年が月と密接に結びついていることが理解いただけたと思います。太陽もとても重要な存在です。

たとえば、一般的なムスリムの日々の宗教的な行いとして礼拝があります。礼拝は1日5回行うのですが、それぞれのタイミングは太陽と深く関係しています。

最初の礼拝は、太陽が地平線の向こうに現れ夜が白くなりはじめてから日の出前に行います。これをファジール [Fajr] 礼拝 (夜明けの礼拝) といいます。

イスラム教徒の人々には1日5回の礼拝の時間があります

Fajr…夜明けから日の出まで
Zuhr…正午から昼すぎまで
Asr…昼すぎから日没まで
Maghrib…日没から陽がなくなるまで
Isha…夜・就寝前(陽が落ちてから夜明けまで)

正確な時間は
時期や場所によって
ちがうわ



23 Nov 2017
TOKYO, JPN

アザーンやアプリで
確認するの

今日の東京なら
こうね

もしお祈り
できなくても

次の時間に
できなかった分を
しっかりしたりも
するわ

わあ…
すごく早起き
しないと
いけないんだ?

まあね

ちなみにサウジでは
お祈りの時間になると

街からこつぜんとな
人がいなくなります

太陽が一番高くなる南中を迎えた頃に次の礼拝、ズフル〔Zuhr〕礼拝（正午の礼拝）が行われます。正午の礼拝は、アスル〔Asr〕礼拝（午後の礼拝）までに行われます。午後の礼拝は、太陽をうけてできたモノの影の長さもとのモノの高さと同じになった際に行われます。

また午後の礼拝は、次の日没直後に行われるマグリブ〔Maghrib〕礼拝（日暮れの礼拝）までに行われ、日暮れの礼拝は日没後に残っている僅かな太陽の光も完全に消えてから行うイシャー〔Isha〕礼拝（日没の礼拝）までに行われます。

なおイランなどのシーア派のムスリムあいだでは、正午の礼拝を行った際に午後の礼拝も、夕暮れの礼拝を行った際に日没の礼拝も行うため、1日分を3度にまとめて行っています。

誰もが礼拝のタイミングを知るためにじーっと太陽の動きを観察しているわけではありません。ムスリムが多く住んでいる地域では、礼拝の時間になると、礼拝をする場所としても使われるモスクなどの集会所からアザーン（礼拝の呼びかけ）が行われます。一般的には礼拝の呼びかけは1日に5回行われますが、さきほどのシーア派の場合、呼びかけも3

回だけになります。かつては、生声で呼びかけを行っていましたが、現代ではマイクとスピーカーを使うことが多いです。

西洋諸国などでは、音量の問題でアザーンの規制が行われる場合があります。

アザーンが流れなくとも、礼拝の時間を知る方法はほかにもあります。たとえば、礼拝時間などを教えてくれる礼拝時計です。日本の大手時計メーカーも中東向けに腕時計を作っています。

日付に加え、位置情報を入力することで、太陽の位置を計算して礼拝の時間をお知らせしてくれるというものです。日本のメーカーではありませんが、モスクのような形をした置時計タイプが一昔前まではオフィスに置かれていることも珍



しくありませんでした。最近では、スマホにアプリを入れておけば、礼拝時間だけでなく礼拝のための方角も教えてくれます。時代に合わせたテクノロジーが活用されているのです。

礼拝ってどうするの？

礼拝はどのように行うのかというと、意外と思われるかもしれませんが、地域差や宗派・法学派が結構あるので「これが絶対の正解」というものはありません。ただ、礼拝の前には浄めきよめがあります。まずはお浄めについて話しておかねばなりません。

一般的にお浄めは水を用いて行います。これをアラビア語ではウドゥー「ウドウ」といいますが、まずはお浄めをする意志を示さなければなりません。そして口や鼻、顔、腕、足など決まった順序でお浄めをしますが、これもやはり宗派や法学派によって違いがあります。

違いがあるのはやり方だけではありません。個人の間でも得意・不得意があるようです。モスクなどのみんながお浄めをするための場所がある施設だと気づかないのですが、旅先

などで専用の場所がない時に得意・不得意がよくわかります。

得意な人だと、水を流していい場所で500mlのペットボトルを使えば、水が飛び散ることもなく水浸しにすることもなく、ちょちよいとやってのけます。反対に不得意な人だと、水を飛び散らかし、床も水浸しにしてしまうのです。

水がない場合には、タヤンムムと呼ばれる砂を使った浄めの方法があります。筆者の知り合いに、灼熱のサハラ砂漠の砂で発掘現場の長靴で感染した水虫を焼いて治したという人がいましたが、焼けた砂に浄化作用があるという考え方に納得がいくものですね。

反対に水はたっぷりあるものの、水を浴びたら風邪をひいてしまうくらい寒いときはどうすればいいのか。日本でも、初詣のときの屋外の手水の冷たさといったたらたまりません



よね。冬にお浄めをする際には、暖かい部屋でぬるいお湯を使うことが多いです。

では、暖かい部屋もぬるいお湯もなければどうすればいいのかというと、知り合いの法学者はその場合はウドウもしなくていいと言っていました。なぜなら「害をあたえるものは、イスラムではない」とムハンマドが仰っていたからというのがその根拠です。

ちなみにウドウでも浄められないケースもあります。穢けがれたものに触れた時です。死体や糞尿などに触れた場合には、アラビア語でグスルと呼ばれる浄めの沐浴をすることになっています。

さて次は礼拝について話しましょう。まずは礼拝をする意志を示さなければなりません。礼拝の際には、メッカのカアバの方向を向いて行います。

礼拝は、ラクアと呼ばれる立礼、屈礼、座礼、平伏礼からなるパターンがあります。それぞれの礼拝のタイミングに応じて決められたラクアの回数を行います。もちろん動作だけでなく、それに応じて唱える文言があります。

とはいえ、先ほども述べたように地域差と宗派・法学派の差もあります。一番わかりやすいのが、シーア派の礼拝で、2ラクア目の立礼と屈礼のあいだに祈願を行います。他の法学派の人が混ざっていると困惑するのではないのでしょうか。

礼拝についてよく質問されることが二つあります。

一つは、手の離せない仕事中に礼拝の時間になったらどうするのかということです。

手術中に礼拝時間になったから手術を放って礼拝をしたというムスリムの医者話を聞いたことはありません。できなければ、あとで埋め合せの礼拝をする方法もあります。なので、同僚に仕事中に礼拝の時間だから手伝えないと言われても、事情を聞き交渉することとは問題ありません。

もう一つは、礼拝の場所についてです。

してはいけない場所がありますが、どこでしなければならぬという決まりはありません。アメリカの大学構内では芝生のうえで礼拝する姿をよく見かけましたし、大学院では隣で同僚が床に礼拝用のマットを敷いて礼拝をしていました。みんなで一緒に礼拝すること、礼拝の効果が高まるとされているので、みんなが集まるモスクで礼拝を行うのは理に適った方法です。

人に迷惑をかけるような場所で行ってもその礼拝は有効ですが、人に迷惑をかけたという点で効果が薄れてしまいます。ですので、迷惑だなどという場所で礼拝しようとしている

人がいれば、やめてくださいと伝えてもいいのです。迷惑にならない場所を教えてあげるとより親切ですね。ただし礼拝中は集中しているので、大騒ぎしたり話しかけて邪魔したりしないようにしましょう。

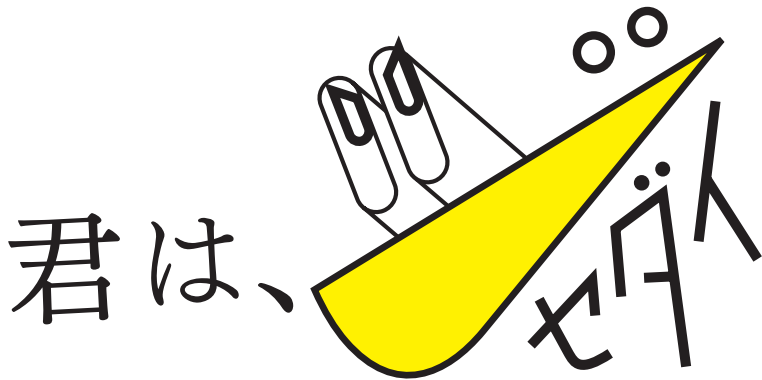
2 イスラムで過ごす1日

1日に5度、あるいは3度のタイミングで行われる礼拝は、生活のリズムを作る一つの柱になります。

たとえば、食事のタイミングです。150年ぐらい前までは一日2食というムスリムの社会も少なくなかったようですが、今日では朝・昼・晩と3度食事をとる社会が多いようです。夜明けの礼拝のあとに朝食、正午の礼拝の後に昼食、日没の礼拝の後に夕食というのが多いのではないのでしょうか。

しばしば「ムスリムは何を食べているのか？」という質問を頂きますが、様々ですとか答えられません。その理由の一つは、イスラムが世界中に広がっているためです。

ある社会でたくさんの方がイスラムに改宗したとしても、その人たちが慣れ親しんだ文



君は、

何と闘うか？

<http://ji-sedai.jp/>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、
行動機会提案サイトです。読む→考える→行
動する。このサイクルを、困難な時代にあっ
ても前向きに自分の人生を切り開いていこう
とする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月
開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。
「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、
すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!